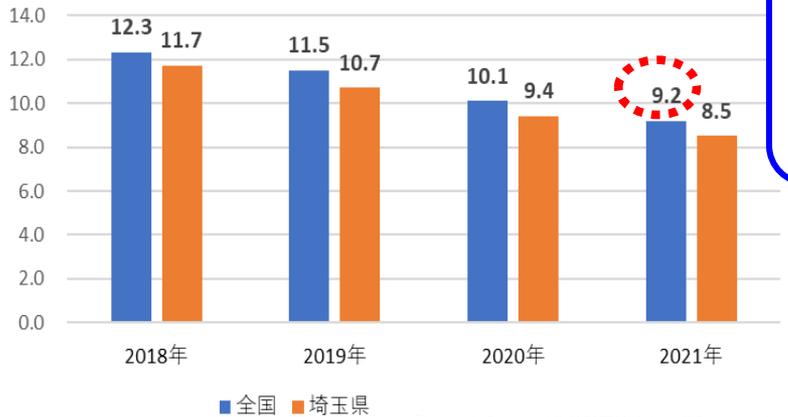


近年の結核患者発生状況について

10万人当たりの結核患者数（罹患率）



「結核の統計2022（公益財団法人結核予防会）」より

2021年は全国で
9.2人となり結核
低蔓延状態と
なりました！



埼玉県マスコット「コバトン」

「結核」と聞いて「昔の病気」と 思っていないですか…??

結核は今でも毎年約1万人の患者が発生しています。

2021年は人口10万対の年間結核登録患者数が9.2人と10未満となりようやく日本も結核低蔓延状態（※）になりました。 ※10人未満（10万人対）＝低蔓延状態

新型コロナウイルス感染症流行の影響による定期健診受診率の低下等負の影響があり、一時的に低下した数値ではないかとの心配もありましたが、現在集計中の2022年数値でも罹患率が10以上になる可能性は低いようです。

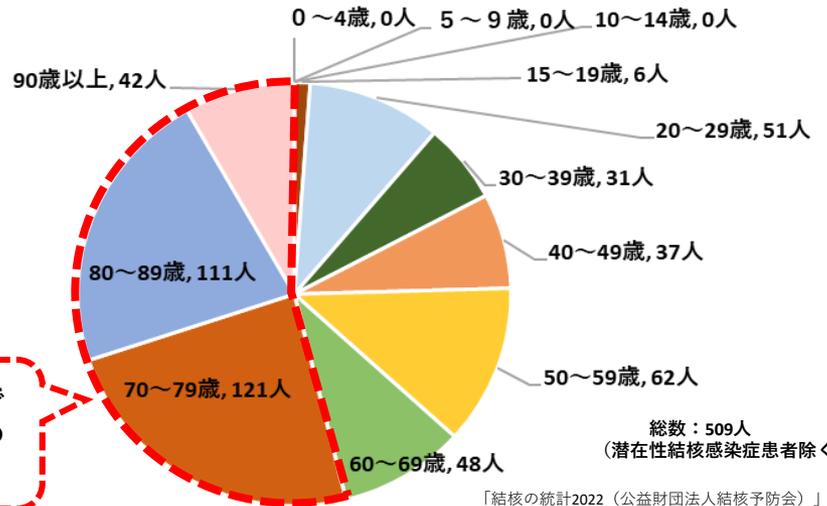
新たに登録された結核患者のうち、**70歳以上の方で半数以上を占めていることがわかります。**

低蔓延状態に入った現在、今後は前根絶（罹患率人口10万対1）を目指す段階に入りました。

現在の特徴の一つに**高齢者の結核患者が占める割合が高い**ことが挙げられます。高齢者は戦後、結核が蔓延していた時代に感染し、高齢や疾病による免疫力低下に伴い、結核を発症する方が多いことが要因と考えられています。

過去の感染をなくすことはできませんが、万が一、発症した際、**早期に発見し、治療に結び付けられることが非常に重要です。**

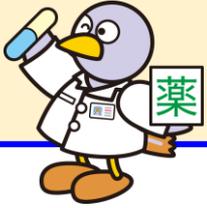
埼玉県 活動性結核患者年代別割合（2021年）



70歳以上の方で
半数以上を占め
ています。

「結核の統計2022（公益財団法人結核予防会）」より

結核について...情報提供



結核の症状

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症が起こる病気です。
最初は風邪に似た症状で始まります。

- 痰が絡む咳が2週間以上続いている
- 微熱・身体のだるさが2週間以上続いている

上記に当てはまる場合には早めに医療機関を受診し、可能なら胸部エックス線検査を実施してもらいましょう。

また、結核特有の症状（咳や痰）は**高齢になるほど現れにくくなります。**食欲不振や体重減少などが続くときは、いつもの風邪と決めつけずに、その症状を正確に医師に伝えましょう。

結核に感染すると？

結核菌に感染しても免疫力が勝てば発病しません。しかし、結核菌が免疫力に勝って肺の中で増殖し始めると、その場所に炎症が起こり、咳や発熱等の症状を引き起こします（=発病）。

* 結核に「感染する = 発病する」ではありません。
感染した人のうち、すぐに発病するのは約1割です。

また、結核を発病しても**早期に発見されれば他人に感染する力を持つ前に治療につなげることができます。**

なお、結核を発病しても**6～9か月間医師の指示どおり治療することで治ります。**他人に感染させる恐れのある場合は、専門病院への入院が必要となります。

大事なこと！

- * 結核は**早期に発見することで他人に感染させる状態となる前に発見することができ、患者自身の重症化を防ぐことにもつながります。**
- * そのためには、**定期的な胸部エックス線検査の実施が必要です。**
- * 支援者の皆様は、職場の健康診断等を**年1回は受診し、胸部エックス線検査を実施しましょう！** もしも、指摘を受けたら**放置せず精密検査をお願いいたします。**
- * 入所者の皆様も**定期的な胸部エックス線検査をお願いいたします。** また、体調不良が長く続く時、普段と様子が異なる時は**早期受診、早期胸部エックス線検査につなげられるよう**注意をお願いいたします。
- * 定期健康診断実施後は、**感染症法第53条の7に基づく「定期の健康診断報告書」のご提出**についてもご協力をお願いします。

